

人格心理学		単位数	履修方法	配当年次	
		4	R or SR	1年以上	
科目コード	FF2511	担当教員	皆川 州正		



※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。平成28年度の開講後は、平成30年度開講予定です。
 ※オンデマンド・スクーリングは平成28・29年度開講予定です。

■科目の内容

ある状況で人はその人なりの思考や行動をとります。しかも、別なときの同じような状況でもその人はその思考や行動をとりがちです。このように一貫性と持続性をもったその人特有の思考や行動の特徴的傾向の体系を「人格」といっています。「人格」と「性格」はほぼ同じ意味で用いられますが、区別するときは、「人格」は態度、興味、価値観などを含む心の全体的特徴を指し、「性格」は主として感情や意志の側面の特徴を指します。

人格心理学では、①個人の全体性と独自性の記述と理解、②個人差の理解と予測、③自我・自己の理解、④人格の発達・形成過程の理解、⑤自己成長・人格変化の過程の解明と援助、⑥人格の障害・病理（葛藤と欲求不満、防衛機構を含む）、⑦人格と健康の関連、⑧人格と文化・性差の関連、⑨人格の理解の方法などについて学びます。このうち、⑥⑧については、補足資料を参照ください。

なお、産業カウンセラーの受験資格取得をめざす人は、『産業カウンセリング』（産業カウンセラー養成講座テキスト）も参照ください。

■到達目標

類型論（タイプ論）的見方、特性論的見方、力動論的見方、ロジャーズの自己理論の特徴を説明でき、仕事の現場や日常生活の中で活用できるようになる。

■教科書（教科書2）は「福祉心理学」と共通）

1) 岡田斉編『心理学理論と心理的支援 第2版』（社会福祉士シリーズ2）（第3・10・11・12章）弘文堂、2014年

2) 小松紘・木村進編『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』（第3部第2章など）八千代出版、2009年

さらに、以下の補足資料（B4判・1枚）を配付します。

- ・皆川州正 2004 問題行動の一般的経過：どのように見通しを持つのか 今城周造（編）福祉の時代の心理学 ぎょうせい pp.198～199
- ・今城周造 2004 情動・欲求の否定的側面：悩んだり、迷ったり 今城周造（編）福祉の時代の心理学 ぎょうせい pp.63～64（皆川により補足）
- ・皆川州正 人格と文化・性差の関連

※産業カウンセラー受験資格取得をめざす人は、『産業カウンセリング』（産業カウンセラー養成講座テ

キスト)も教科書に準じて活用ください。

(最近の教科書変更時期) 2015年4月

※教科書2)は「福祉心理学」で配本のため、この科目では教科書1)のみ配本いたします。

■履修登録条件

この科目は「福祉心理学」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	人格の定義と研究の課題 (教科書1)の第3章1, 教科書2)の第3部第2章第1節1・2)	心理学における人格の定義, 人格と性格と気質の違い, 研究の課題と臨床における応用について学ぶ。	学びを深めるコツとして, ①どういう意味か, ②どういうことか, ③どういうわけか, ④(自分や社会に)どういう関わりか, という4つの問いがあります(武田忠, 2001による)。これを本講義にあてはめると, ①人格とはどういう意味か, ②心理学でいう人格とはどういうことか, ③どういうわけで人格の研究が必要なのか, ④人格についての学びは自分にどう関係するのか, ということになるでしょう。 福祉心理学の福祉はすべての人の幸せ・生きがい・自己実現をめざすwell-beingを意味しています。また, 心理学は心の理学(科学)を意味しています。そこで, 人格について学ぶことで, その人の心と行動を理解し予測するとともに, 適用の援助, 自己実現の支援に役立てます。 日常生活で用いている「人格」の意味と心理学で用いている「人格」の意味の違いについて考えてみましょう。
2	類型論 (教科書1)の第3章2B, 教科書2)の第3部第2章第1節3)	類型論の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, クレッチマーの類型論とシェルドンによる研究, ユングの類型論, その他の類型論について学ぶ。	「全体は部分の総和以上のものである」といわれ, 全体と部分の問題は心理学の大きなテーマになっています。類型論は全体を重視する立場になり, 特性論は部分を重視する立場になります。心理学の歴史も踏まえながら, とらえていくとよいでしょう。 クレッチマーの着想は臨床経験から, ユングの着想はフロイトとアドラーの見方の違いがどこからくるのかと考える中で生まれました。理論が生まれた背景のエピソードにも目を向けるとよいでしょう。 自分自身の類型について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	特性論 (教科書1)の第3章2C, 教科書2)の第3部第2章第2節2)	特性論の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, キャッテルとアイゼンクの研究, 特性5因子モデルについて学ぶ。	人格特性はオルポートによって提唱されました。オルポートはフロイトのもとを訪れ, 失望したことから, 新たな理論が作られました。特性論は因子分析という統計的手法によって発展し, 今日盛んになっている質問紙法の人格検査をもたらしました。また, 特性の因子数については研究者によって異なっていました, 今日ではおおよそ5つになることが明らかになりました。 自分自身の特性について考えてみましょう。
4	状況論と相互作用論 (教科書1)の第3章2C(4))	ミッシェルによる状況論と「人-状況論争(一貫性論争)」と, その後の展開, 特に相互作用論について理解する。	ミッシェルは, 平和部隊としてナイジェリアに派遣される若者達の派遣後の適応などをロールシャッハ・テストや特性質問紙人格検査によって予測しましたが, 結果は思わしくありませんでした。そのことから, 人格の定義そのものに疑問を投げかけました。そこから, 大論争が巻き起こり, 人格についての精錬された見方へと発展しました。 状況によって人格が変わってしまう例を考えてみましょう。
5	力動的構造論 (教科書1)の第3章2D, 第11章1A, 教科書2)の第3部第2章第2節1, 第4部第3章第3節4)	力動的構造論の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, レヴィンの場の理論, フロイトの精神分析理論とその後の展開(自我心理学, 新フロイト派, 対象関係論など), ユング心理学, アドラー心理学, ロータッカーによる成層説, アサジョーリによる精神統合理論について学ぶ。また, その応用としての精神分析, ユング心理学, アドラー心理学, 精神統合の心理療法について学ぶ。	フロイトは, 事例を一般化して精神分析理論を構築・発展させていきました。また, フロイト自身が神経症を抱えており, 父の死をきっかけとして神経症が悪化, 友人の助けを借りながら自己分析を通してエディプスコンプレックスを発見します。フロイトの人生と事例をたどりながら学ぶことをお勧めします。 なお, 力動とは, 2つの力のぶつかり合いを意味します。そこで, まず, 心の中の葛藤を考えてみましょう。 アドラー, ユング, アサジョーリはフロイトのもとで学びますが, やがて袂を分かって, 無意識についての新たな見方をしていきます。フロイトの見方との違いを考えてみましょう。
6	交流分析理論 (教科書1)の第3章2D(5)(4), 第11章1E, 教科書2)の第3部第2章第2節1)	交流分析における自我状態の構造分析, 脚本分析(禁止令とドライバー), 交流パターン分析, ゲーム分析, ストローク理論, 基本的構え, 時間の構造化などについて学ぶ。また, その応用としての交流分析の心理療法について学ぶ。	交流分析は, 「精神分析の口語版」ともいわれ, バーンによって, 精神分析理論を基にし, 人間性心理学の視点を取り入れて創始されました。 交流分析では, 自律的な人間をめざし, そのためには「気づき」「自発性」「親密性」の要素を高めることが必要と考えています。交流分析によって, 気づき, 自発性, 親密性がどのように高められるのかを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	人間性心理学 (教科書1)の第3章2F、第11章1B、教科書2)の第3部第2章第2節6、第4部第3章第3節4)	人間性心理学の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、マズローの欲求階層説と自己実現論、ロジャーズの自己理論について学ぶ。また、その応用としての来談者中心療法について学ぶ。	マズローは、精神分析と行動主義心理学に対して、第三勢力として、人間の心の健康的な側面に注目し、研究を行いました。ロジャーズは、児童相談センターで、ある母親の話す夫婦の問題に耳を傾けて聞くうちに、母親が夫婦の問題や子どもの問題を解決していくという経験をし、非指示的療法を提唱し、さらに来談者中心療法、人間中心療法へと発展させました。人間性心理学が生まれた背景にも目を向けながら学ぶとよいでしょう。自分自身の欲求の段階、経験と自己概念の不一致について考えてみましょう。
8	学習論、認知論 (教科書1)の第3章2E・G、第11章1C、教科書2)の第3部第2章第2節4・5、第4部第3章第3節4)	学習理論・認知論の考え方、利点と欠点について理解する。恐怖症、攻撃行動、無気力、社会的行動が学習によるという見方について学ぶ。認知の個人差が課題解決や社会的感受性、不安や抑うつと関連していることを学ぶ。また、その応用としての認知行動療法について学ぶ。	認知や行動は再学習することが可能であり、医療領域や健康領域では認知行動療法あるいは行動変容アプローチとして盛んに応用されてもいます。自らの認知や行動について自己観察し、認知や行動の変容が生じやすいような工夫を考えてみましょう。
9	文化の影響 (教科書1)の第3章3A(3)、第11章1B、教科書2)の第4部第1章第3節、補足資料)	文化人類学における研究、文化的自己観について学ぶ。	グローバル化が進み、多文化共生共創社会が課題となっています。文化が人格形成に影響していることを知って、自分の所属する文化の人たちの行動や異なる文化の人たちの行動について考えてみましょう。同時に、ステレオタイプの異文化理解に陥らないように留意することも必要です。
10	自我・自己 (教科書2)の第3部第2章第3節、教科書1)の第11章1D)	自我・自己の概念と分類、自我・自己の形成、自我・自己の機能、自我の強さ(成熟度)について学ぶ。解決志向療法による生きる力の成長についても学ぶ。	自分という意識が行動にどのように影響しているか、自己観察してみましょう。吉田松陰は「私心さえ除き去るならば、進むもよし退くもよし、出るもよし出ざるもよし」といいました。夏目漱石はエゴイズムの問題に向き合い、晩年は「則天去私」を理想としました。京セラの創業者稲盛和夫は何かをしようとするときに「動機善なりや、私心なかりしか」と自問自答したといいます。私心について考えてみましょう。解決志向療法の考え方は、エンパワーメントをもたらす、自己評価・自己概念の変容を生じることもあります。応用してみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	自己実現 (教科書2)の第3部第2章第4節, 教科書1)の第3章ジェネリックポイント)	自己実現・自己超越のとらえ方, 自己実現の成長過程, 自己実現の留意点について学ぶ。	歴史上の人物や有名人の自己実現について考えてみましょう。 自分がどの程度自己実現に向かっているのか, 考えてみましょう。
12	人格の形成・発達と変化 (教科書1)の第3章3, 第11章1A(2)・(4), 第4章1, 教科書2)の第5部第1章第4節, 教科書1)の第11章1D(5)・2E1, 第4部第3章第3節5)	人格の形成における遺伝的要因, 個体内要因, 環境的要因, 主体的要因について学ぶ。人格の変化と役割性格の変化について学ぶ。フロイトによる心理-性的発達論, エリクソンによる心理・社会的発達論, 分離-個体化理論, 対象関係論, 道徳性の発達, ナラティブセラピーや遊戯療法による人格変化についても学ぶ。	リンカーンは「40歳を過ぎたら, 自分の顔に責任を持たなくてはならない」といいましたが, 人格も生涯発達することが可能です。自らの人格形成について考えてみましょう。
13	人格理解の方法 (教科書1)の第10章2・3, 第5章1B(1), 教科書2)の第4部第3章第2節)	質問紙法, 投影法, 作業検査法の人格検査及び人格検査の実施の際の留意点について学ぶ。心理検査, 面接法や観察法による心理査定について学ぶ。帰属や印象形成におけるバイアスが人格理解を歪めることについても学ぶ。	強迫神経症とヒステリーが連続したものかどうか論じられ, アイゼンクは, 人格検査により, とともに神経症的傾向が高いが, 前者は内向性が高く, 後者は外向性が高いことを示し, 連続したものでないことを明らかにしました。これにより, 心理検査の有用性が示されました。 心理検査にもさまざまな種類があり, その違いを理解して用いることが必要です。また, 検査者の態度によって心理検査の結果も変わってくるので, 実施の際に留意する必要があります。 帰属や印象形成におけるバイアスについて, 自分自身の経験を振り返って考えてみましょう。
14	人格の障害・病理 (教科書1)の第3章2E, 第11章1A(4)(1), 教科書2)の第4部第2章第1節, 第4部第3章第1節, 補足資料)	葛藤と欲求不満, 防衛機制について学ぶ。パーソナリティ障害について, 症状やタイプの違いについて学ぶ。	問題行動の背後にある葛藤や欲求不満について考えてみましょう。 病態水準(神経症, パーソナリティ障害, 精神病)ごとの自我状態(現実検討力, 自我境界, 防衛機制)について考えてみましょう。 パーソナリティ障害はパーソナリティの偏りを意味します。タイプごとに歴史上の人物や有名人を考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	人格と健康との関連 (教科書1)の第12章1B・C・コラム、第3章ジェネリックポイント)	タイプAとタイプC、H因子とD因子、うつ病親和性性格、ハーディネスとレジリエンシーについて学ぶ。	人格とストレスが相まって健康に影響を及ぼすことが知られています。心疾患になりやすい人、癌になりやすい人、うつ病になりやすい人、ストレスに強い人、ストレスに打ちひしがれても回復する人について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	<p>【説明型レポート】 災害時または対象喪失時にみられる無気力状態について、下記の観点から各300字以上500字以内で簡潔に説明してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ミッシェルの状況論 ② 学習性無力感 ③ 自己理論 ④ 認知の歪み <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可</p>
2 単位め	<p>【説明型レポート】 下記について各300字以上500字以内で簡潔に説明してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ユングの類型論からみた次の人物（A～Cから一つの人物群を選択）について <ul style="list-style-type: none"> A 日本神話のアマテラスとスサノオ B 『ちびまる子ちゃん』のまる子とお姉ちゃん C 『となりのトトロ』のサツキとメイ ②ビッグ・ファイブからみた①で選んだ人物について ③自己実現的な人物について ④タイプAとタイプCの人物について <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可</p>
3 単位め	<p>力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。</p>
4 単位め	<p>人格諸理論の視点から自己分析を試みて、その感想とコメントを述べなさい。</p>

(平成27年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

人格の研究方法として、伝記・日誌法、フィールドワーク、実験法、自然観察法、面接法、観察法(客観的評価法)、尺度・質問紙法、投影法などがあります。人格について理解を深める際も、単に知識として学ぶだけでなく、人格の研究法を参考に実際の日常生活場面での人格にアプローチして考えていくことが望まれます。その際、他人の性格に対する私たちのとらえ方の癖や歪み(寛大化傾向、中心化傾向、近接誤差、対比誤差、年功誤差、ハロー効果、論理的誤謬、傾性帰属傾向など)についてよく知っておくことが大切です。テキスト1)の第5章の1のBの[1]の(1)帰属と(2)印象形成も参照してください。ま

た、あいまいな状況では、評価者の善悪の価値・期待・願い・恐れ・不安なども無意識に投影されて理解されがちです。

テキスト1)の第3章の2では、人格のさまざまなとらえ方について述べてありますので、よく読んで、その背後にある人間観の違いについても考えてみてください。

レポートの作成にあたっては、テキストをよく読んで、その内容をよく理解してください。その際、①知識の理解、②具体的な場面での理解、③テキストの執筆者の見方や意図の理解、④家庭・仕事・教育・臨床などの場面での応用を心がけるとよいでしょう。また、知識の理解に際しても、心理学的な見方や考え方に目を向け、理論や学説が生まれた経緯や背景も考えながら読み進めるとよいでしょう。さらに、テキストだけでなく、各自でいろいろ調べて深めてください(1単位め～3単位めの課題については、テキスト以外に少なくとも2冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください)。

※以下、このアドバイス欄であげたテキストの章立てで指示のないものは教科書1)のものです。

1単位め アドバイス

- ①テキストの第3章の2のC〔4〕(状況論と相互作用論)を参考に取り組んでください。ミッシェルが特性論に疑問を抱くようになった経緯や状況論がその後のパーソナリティ研究に与えた影響も調べるとよいでしょう(特に、戸田・サトウ・伊藤(2005)に詳しく紹介されています)。
- ②テキストの第3章の2のE〔2〕(不適応行動の学習)を参考に取り組んでください。学習性無力感(セリグマン・M)によって発見された心理学的知見です。発見の経緯やその後の研究の知見、展開(ポジティブ心理学など)も調べるとよいでしょう。克服のための援助についても、調べてみてください。動機づけの側面、認知的側面、情動的側面、選択的側面について考えてみるとよいでしょう。その際、第3章の2のE〔3〕(社会的学習理論と自己効力感)や第3章の2のD〔5〕(1)(個人心理学)、第9章の3のC(動機づけの理論)も参考になります。なお、セリグマンの著書は日本でも翻訳されていますので、一読をお勧めします。
- ③テキストの第3章の2のF〔3〕(ロジャーズの自己理論)を参考に行動への影響、適応への影響について具体例をあげて取り組んでください。また、第4章の1のB〔2〕(青年期の発達課題)および第11章の1のD〔5〕(ナラティブ・セラピー)、小松・木村編(2009)＝テキスト2)の第3部第2章第3節(自我と自己)も参考になります。
- ④テキストの第3章の2のG〔3〕(認知の個人差)を参考に取り組んでください。代表的な認知の歪みについては、第11章の1のC〔2〕認知療法に詳しくのっていますので、参考にしてください。

2単位め アドバイス

- ①テキストの第3章の2のB〔3〕(ユングの類型論)を参考に取り組んでください。3人の特徴をあげ、それをもとに類型を考えるとよいでしょう。また、お互いの関係や達成・挫折についてもユングの類型の観点から考察してみてください。なお、類型論から人物をとらえる作業を通して、類型論の利点・欠点についても確認してください。
- ②テキストの第3章の2のC〔3〕(ビッグ・ファイブ)を参考に取り組んでください。特性は誰でも持っており、その程度の違いによってとらえます。そこで、それぞれの特性が高い、中くらい、低いというような記述になります。3人の5因子の特性の程度を考え、表にし、それを裏付ける行動的な特徴

をあげるとよいでしょう。また、特性論から人物をとらえる作業を通して、特性論の利点・欠点についても確認してください。

- ③テキストの第3章の2のF [2] (マズローの欲求階層説と自己実現論) およびジェネリックポイントの自己実現・自己超越を参考に取り組んでください。マズローは、最初は自己実現を果たしている人(自己実現的な人)について調べましたが、その後、自己実現的な人でなくても、至高経験をしていることに着目しました。また、晩年は、自己実現の上位にある自己超越を強調しました。マズローの研究の歩みについても調べてみるとよいでしょう。なお、小松・木村(2009) = テキスト2) の第3部第2章第4節(自己実現)も参考になります。
- ④テキストの第12章のコラムを参考に取り組んでください。タイプAとタイプCは健康と関連する人格として有名です。具体例をあげながら考えてみてください。なお、課題およびテキストにはありませんが、健康と関連する人格として、アイゼンクによる6つのタイプ(タイプ1はタイプCに、タイプ2はタイプAに相当)、うつ病になりやすい性格として、下田光三による執着気質やテレンバッハによるメランコリー親和型があります。

3単位め アドバイス

テキストの第3章の2のD(力動的構造からみる)と第11章の1のA(精神分析と分析心理学)あるいは第11章の1のE(交流分析)をよく読んで取り組んでください。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもありません。心理的不適応の具体例については、身近な人や社会的な事件、臨床的な事例などをとりあげて理解を試みてください。そして、テキストを参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのように援助していったら心理的適応を促すことになるかについても考えてみてください。

4単位め アドバイス

人間の目は前について外を向いています。ある人は、このことから、自分を振り返り、自分の内に目を向ける人は少ないといえます。また、ソクラテスは「汝自身を知れ」といって、己の無知さをまず知ることを説きました。他方、インドには、ソクラテスを訪ねた修行者が「あなたの哲学は何か」と問うたところ、ソクラテスは「自分自身を知ること」と答えたので、その修行者は「人間の本质を知らずして自分自身を知るなんて不可能」と思い、早々に帰ってきたという話が伝わっているそうです。それほど自分自身を知ることが難しいものです。

自分自身を知ることが難しい理由を心理学的にみた場合に、防衛機制と自我関与の働きがあります(加藤, 2001)。自己分析に際して、防衛機制が働くと、知的に理解することで無意識に自分の感情に直面することを避けたり、○○だから仕方がないとあきらめたりするようになります。また、自我関与が働くと、自分のことだけを考えて、相手がどんな気持ちでいるかをなかなか考えられなくなったり、考えても自分の都合のいいように考えてしまったりします。そうすると、自分の感情(葛藤する感情や隠れた動機など)を見つめること、相手の気持ちに目を向け、相手の気持ちにそって考えることで自己分析の幅も広がるでしょう。

自己分析を行う際には、まずテーマをしぼります。最近イヤなこと、恥ずかしかったこと、癪に障ったこと、ガックリきたこと、あわてたことなどを思い出して、焦点をしぼって、そのときの自分の気持ちや動機について分析を行います(加藤, 2001)。また、相手や周囲がどんな気持ちでいたか、自分の言動に

よってどんな気持ちになったかを考えます。

次に人格諸理論の視点から自己分析を行います。テキストの第3章だけでなく、第11章も読むと役立つと思います。以下に要点を述べますので、参考にしてください。

- (1) 類型論：自分の類型について知るとともに、相手の類型の良さを生かせる状況作りを図ったかどうか、相手の類型の短所を補うように助けたかどうかを振り返ります。
- (2) 特性論：自分の特性や相手の特性の病理的特徴を一般的特徴に言いかえてみます（たとえば、「臆病な人」は「とても控えめな人」というと印象が変わる）。そして、その特性を認め、その特性を十分に出せる状況や新たな行動の付加を考えてみます（たとえば、立食パーティでは大いに控えめにしているので、周囲をよく観察してコップや料理の皿が空になっている人にはそっとビールをついだり料理を届けたりするなど）。
- (3) 力動的構造論：精神分析理論によれば、現実生活での外傷的体験やストレスを振り返るとともにそれ以前（主に子どもの頃）に性的（愛情・依存）欲求や攻撃欲求などで葛藤し、抑圧してこなかったかどうかを振り返り、抑圧してきた欲求を社会的に認められる形で満たす方法を考えます。ユング心理学によれば、症状や問題行動を無意識の補償作用や個性化の過程としてとらえ直し、生き方を変えていきます。個人心理学によれば、問題行動を通して自分は本当には何を望んでいるのか（行動の目的）を振り返り、問題行動以外で目的を達するやり方を考えます。交流分析理論（p. 40, p. 186~189）によれば、自我状態をとらえ、高い自我状態での行動に偏っていないかどうかを振り返り、低い自我状態を高めるようにします。また、自分が繰り返しやすいゲームのパターンや人生脚本に気づき、ゲームからの脱却や再決断を行います。
- (4) 学習理論：自分の問題行動について先行する手がかり刺激や強化について振り返ります。そして、段階的に目標行動に向かうことや目標行動の誘導の工夫（マークをつける、自己会話（「落ち着け」など）をするなど）、社会的スキルの訓練、役割遂行や自己選択による自己効力感の向上、セルフ・モニタリング（自ら毎日測定記録をつける）などを図ります。
- (5) 人間性心理学：自己概念を振り返り、経験していること（自分の感情や欲求など）に目を向けるようにします。
- (6) 認知論：認知スタイルや認知の歪みについて振り返り、別の考え方や取り組みを図ります。

なお、第3章のジェネリックポイントの人生の意味の探究や自分についての物語、第11章の1のDの[3]のソリューション・トークも、新たな視点や問題行動と偽解決の悪循環パターンから抜け出すヒントを与えてくれるので、参照してください。

レポートでは、複数の視点を取りあげて考察してください。

■科目修了試験 評価基準

内容理解が一番のポイントになる。また、キーワードの記載、記述の分量（1問あたり400~1,200字程度）も評価の対象となる。

■参考図書

加藤孝義著『パーソナリティ心理学——自分を知る・他者を知る』新曜社、2001年

- 河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館, 1967年(※ユングの類型論について詳しい)
- 前田重治著『図説 臨床精神分析学』誠信書房, 1985年
- 諸富祥彦著『カール・ロジャーズ入門——自分が“自分”になるということ』コスモスライブラリー, 1997年
- 諸富祥彦『自己成長の心理学——人間性/トランスパーソナル心理学入門』コスモスライブラリー, 2009年
- A. H. マズロー著 小口忠彦訳『人間性の心理学——モチベーションとパーソナリティ』(改訂新版) 産能大出版部, 1987年
- A. H. マズロー著 上田吉一訳『完全なる人間——魂のめざすもの』(第2版) 誠信書房, 1998年
- 本明寛他編『性格心理学新講座』全6巻, 金子書房, 1989~1990年(「性格の理論」「性格形成」「適応と不適応」「性格の理解」「カウンセリングと心理治療」「ケース研究」)
- 大淵憲一・堀毛一也著『パーソナリティと対人行動』誠信書房, 1996年
- 小川捷之・詫摩武俊・三好暁光編『パーソナリティ』(臨床心理学大系第2巻) 金子書房, 1990年(※自我・自己, 人格の障害について詳しい)
- 小野直広編『生徒指導』(新教育心理学体系3) 中央法規出版, 1993年
(※人格の理解の方法について詳しい)
- M. セリグマン著 山村宜子訳『オプティミストはなぜ成功するか』講談社, 1994年
- 島井哲志編『健康心理学』(現代心理学シリーズ15) 培風館, 1997年
- 清水弘司著『はじめてふれる性格心理学』(ライブラリー心の世界を学ぶ3) サイエンス社, 1998年
- 杉山憲司・堀毛一也編『性格研究の技法』福村出版, 1999年
- 瀧本孝雄著『性格のタイプ——自己と他者を知るための11のタイプ論』サイエンス社, 2000年
- 詫摩武俊監修『性格心理学ハンドブック』福村出版, 1988年
- 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊編『性格心理学への招待(改訂版)——自分を知り他者を理解するために』サイエンス社, 2003年
- 詫摩武俊・鈴木乙史・清水弘司・松井豊編『人間と性格』シリーズ全8巻, ブレーン出版, 1999~2001年(「性格の理論」「性格の発達」「性格と対人関係」「性格の変容と文化」「性格研究の拡がり」「性格の測定と評価」「性格の不適応」「性格の病理」)
- 丹野義彦著『性格の心理——ビッグファイブと臨床からみたパーソナリティ』サイエンス社, 2003年
- 戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子著『グラフィック性格心理学』サイエンス社, 2005年